

令和7年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(総合型選抜Ⅰ)

小 論 文

(地域学部 地域学科 人間形成コース)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は4ページ、解答用紙は3枚、下書用紙は3枚である。
指示があってから確認し、乱丁、落丁、印刷不鮮明の箇所等がある場合は、ただちに試験監督者に申し出ること。
3. 解答は解答用紙(横書き)に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. **解答用紙を持ち帰ってはならない**が、問題冊子及び下書用紙は必ず持ち帰ること。

問題Ⅰ 次の英文は、最近の高等教育に関する新聞記事である。英文を読んで、問1、問2に答えなさい。

(1) The University of Tokyo has begun considering increasing its tuition fees, a move that students have opposed as a threat to the freedom to learn and is being closely watched for possible effects on other national universities.

Tuition fees at national universities have been set by each institution based on a ministerial ordinance since they were turned into national university corporations in fiscal 2004. The standard undergraduate annual tuition is set at ¥535,800 (\$3,417), and universities can set their tuitions at up to 1.2 times that amount, or ¥642,960.

The University of Tokyo has maintained fees at the standard level, leaving headroom of about ¥100,000.

Tokyo Institute of Technology and Tokyo University of the Arts raised their tuitions in fiscal 2019, and other national universities such as Hitotsubashi University and Tokyo Medical and Dental University followed suit. Seven out of the 86 national universities in Japan currently set tuition fees higher than the standard.

The University of Tokyo has begun mulling the option of hiking fees to as high as the maximum level permitted, due to challenges faced by university management amid the declining birthrate and the need for funds to promote the internationalization of research and digitalization, people familiar with the matter said.

The university is discussing expanding scholarships and tuition reduction and exemption programs as well, according to the same people.

A public relations official from the University of Tokyo acknowledged that a tuition hike is being considered, but declined to give further details.

Students have expressed opposition to the proposed tuition increase. A group of University of Tokyo students staged a protest, including by displaying banners, during a school festival on May 19, claiming that the hike threatens the freedom of financially struggling students to learn and hinders access for aspiring students.

According to a simple survey conducted by an association of freshman and sophomore students at the university, many of the 418 responses collected were against a possible tuition increase. The association plans to conduct a survey of all students.

A 20-year-old board member of the association said that students will be most impacted by the tuition hike, and that (2) the association will seek discussions between the university side and students based on the survey results.

注

The University of Tokyo : 東京大学, ministerial ordinance : 省令, fiscal : 年度,
Tokyo Institute of Technology : 東京工業大学, Tokyo University of the Arts : 東京藝術
大学, Tokyo Medical and Dental University : 東京医科歯科大学, mull : 検討する,
amid : 〜の中で, scholarship : 奨学金, tuition reduction and exemption programs : 授
業料減免制度, hinder : 妨げる, aspire : 志望する, sophomore : 2年生

出典

“University of Tokyo considers tuition hike”, *The Japan Times*, May 27, 2024

<https://www.japantimes.co.jp/news/2024/05/27/japan/society/tokyo-university-tuition/>
(2024年8月20日アクセス)

問1 下線部 (1) に関して、東京大学が授業料の値上げを検討し始めた理由は何か。本文
の内容に基づいて日本語で答えなさい。

問2 下線部 (2) について、大学側と学生側双方の主張を踏まえて、あなたの考えを日本
語で述べなさい。(400字以内)

問題Ⅱ 次の文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

「病訪⁽¹⁾」の大黒柱

教育の場では、こども集団があるか否かということは決定的な問題だ。「いじめ」や「学級崩壊」などの問題が取り上げられることで、「集団」というものは何やら悪影響を及ぼすものというイメージで捉えられがちだが、本来こどもたちが育っていくとき「集団」は欠かすことのできないものである。

こどもたちが意欲を持ったり、前向きに日々を過ごそうとするとき、そこには間違いなく信頼できる他者の存在がある。信頼でき、仲間と思える人間がいるからこそ、日々は楽しくもなるし、競いあって努力することも可能になる。集団には教育力があり、教師はそこに依拠しつつ教育活動を展開することも多い。

だが「病訪」は違う。先生ひとりに生徒ひとりの「学校」だ。小中学校や院内学級のように、クラスメートがいるわけではない。こどもたちはいつもひとりだ。人間の集団の持つ前向きのパワーに勇気付けられたり、仲間からの教育力に期待することはできない。集団の教育力に依拠できる小中学校や院内学級と、個別に働きかけをする「病訪」では指導方法に相違があるのは当然のことだ。

健康なこどもたちにとって、未来は、希望や夢と共に望見するものである。「大きくなったら……」「大人になったら……」。後に続く言葉は、悲嘆や諦観^{ていかん}の類ではない。だが、重い病気であることを知らされたこどもたちは違う。

かれらはある日突然、病気であることを告げられる。四肢のいずれかを失う子がいる。手術を受けて、その後の生活に大きな制約を受ける子もいる。退院といっても寛解^{かんかい}⁽²⁾であり、再発の不安を抱きながら日々を過ごすことも稀ではない。

本当に自分の病気は治るだろうか。強引に理不尽に切断されてしまったそれまでの日常は、いつ戻ってくるのだろうか。必ず元気になって元のような生活に戻る——そんな希望を抱きながらも、ふいに襲ってくる不安は膨らみ出すととどめることができず、悲観と絶望に包まれた未来しか見えなくなることだってある。

そんな揺れる感情に翻弄されながら闘病生活に入ったこどもの待つ病室に、私たちは教師として出向き、自分と、言葉と、教材だけで迫っていく。焦れば、こどもたちは心を閉ざし、教師と授業を拒否する。

週に一度か二度、それも短時間だけ訪れる私たちにできることは、安易な励ましを口にしたり、実感として感じられない「希望」を声高に語ることではない。ましてや勉強が遅れてしまうぞ、などと脅しながら学習を催促することではない。

——こどもたちが「いい子」ではない姿や感情を見せても、教師臭い批評を加えたりお説教など決してしてはならない。ふさぎ込む子には、冗談を飛ばし、手品でも披露して、とりあえずは傍^{そば}にいることを嫌がられないようにすること。

人間のこどもは、能動的な生きものである。落ち込んでいても、いつかどこかで明るく意欲的な姿を見せるようになる。そのときようやく教師の仕事を始めればいい。なかには気持ちを立て直せないまま、長い時間を過ごす子もいるだろう。そんな時は黙って脇にいるしかない。結局のところ教師などというものは、こどもたちの内なる力に依拠しつつ、彼や彼女らに寄り添うことしかできないのだ――。

失敗や後悔を繰り返しつつ、私たちは次第にそう考えるようになった。それは経験から生み出した実践におけるバックボーン、困ったときに頼るべき大黒柱とも言うべきものでもある。「待つ」ことや、「何もできない」と自覚することが大黒柱というのは^{いさ}些か寂しい気もするが、それでもやはり大黒柱なのである。

<中略>

ふさぎ込むこどもたち相手に強引に授業をするよりは、職員室でお茶でも飲んでいた方がいい――。出前教師たちは、周囲から見ればあっけらかんとして見えるような対応をとる。

このような姿勢は⁽¹⁾「学校の常識」とは、やや距離がある。<中略>

だが生徒ひとりに先生ひとり、という特殊な形態で授業をする「病訪」では、ときに「学校の常識」から逸脱することも必要になる。教師の価値観や学校の常識をむき出しのままこどもに押しつけることで、かえって悪い結果を招くこともあるのだ。

注

(1) 病院訪問教育の略。義務教育年齢の子どもが長期入院して学校において教育を受けられない場合に、担当教員が病院へ出向いて教育を行う教育の一形態をいう。

(2) 治癒はしていないが、症状が軽減または消失した状態のこと。完全に治ってはならず、再発の恐れがある。

出典

山本純士『授業の出前、いらんかね。』文藝春秋、2006年、138-143頁。

問1 下線部(1)「学校の常識」とはどのようなものか。文中で示された具体的な内容も含めて説明しなさい。(100字以内)

問2 筆者のいう「病訪」の大黒柱とは何かをまとめなさい。また、筆者の主張に対するあなたの考えを述べなさい。(800字以内)

【出典一覧】

問題 I

"University of Tokyo considers tuition hike", The Japan Times, JIJI, May 27, 2024

<https://www.japantimes.co.jp/news/2024/05/27/japan/society/tokyo-university-tuition/>

問題 II

山本純士『授業の出前、いらんかね。』文藝春秋、2006年、138-143頁。